

令和4年度 学校評価における自己評価について

認定こども園 鳥取第四幼稚園

1. 園の教育目標

- <ゆたかで やさしく たくましいこども> (3歳以上児)
- 自ら目標をもってたくましく活動する子ども
 - 友達の気持ちを思いやり、協力し合って遊べる子ども
 - 素直に感動する心をもち、感動を創造豊かに表現できる子ども
 - 豊かな生活経験の中から物事を知的に理解し、判断できる子ども
 - 豊かな感性をもち「生きる力」を身につけた子ども
- <こころも からだも すこやかに そだちあうこども> (3歳未満児)
- こころも身体健やかで元気いっぱい遊ぶ子ども
 - 保育者や友達に親しみ、心地良さや安らぎを感じ取れる子ども
 - やさしくて思いやりのある子ども
 - 感じたこと思ったことをのびのびと表現する子ども
 - 物事に感動し、感性豊かな子ども

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や、計画を元に設定した学校評価の具体的な目標や計画

「豊かな心を育てる保育」～子どもの育ちを支える環境づくり～

園経営の重点

- 教育・保育計画の充実を図るため、職員間での話し合いを重視し、長期的な視野で教育・保育過程を再編し、段階的な保育計画を作る。
- 活動や園児の行動の記録をとることにより、個々の成長・発達の違いを理解し、援助の見直しを行う。
- 豊かな生活経験を基盤に園児との信頼関係の上に立って、ことば・描画・制作・音楽・身体などの多彩な表現を引き出す。
- 環境の工夫や個々に合わせた援助の工夫により、自発的な意欲を引き出し、自ら環境にかかわり積極的に行動できる生活をつくる。
- 教師自身の園生活の態度が教育・保育の重要な環境となることと考え、教育研修に努め、資質向上を図る。
- 全職員が保健・安全に関する研修を積むとともに、自己記録やヒヤリハット、マニュアル、ガイドラインなどを職員全員で情報を共有、声の掛け合い安全点検等により、健康で安全な園生活が送れるようにする。
- 「子育て支援事業」を行い、地域の乳幼児やその保護者が気軽に集える場を提供し、地域との連携を深める。
- 家庭と園の教育的役割を理解し、家庭への園教育の理解を促す。また職員も家庭状況をよく理解し、共に協力して教育・保育を行う。

3歳以上児

- ◎ 日々の遊びや生活の充実のための保育環境作りについて研究を進め、実践につなげる。
- 日々の遊びの中で子ども達の主体性や達成感、遊びの発展・継続などが十分行われ、充実した自由遊びの時間を持つための保育環境づくりを行う。
- 子ども主体の生活となるために、子どもの思いや考え、育ちを読み取り、子どもの主体性と保育教諭の意図がバランスよく絡み合い、共に遊びや生活を作り上げていくための援助の仕方や保育の展開を行う。

3歳未満児

- ◎ 保育教諭との信頼関係を育み、見守られている安心感の下、自ら様々なものに興味や関心をもち、感じたり、考えたり、試したり、繰り返したりする過程を大切に保育を行う。
- 保育ドキュメンテーションを活用しながら保育・環境構成を計画・実行していく。また、保育の内容を振り返る手掛かりにしながら計画が途切れぬよう職員間で共通理解していく。

3. 評価項目の達成および取組状況

(1) 子どもの好奇心を育み、思考力判断力を高めながら、豊かな心を育てるための保育計画立案・環境構成、および実践。	A	子どもの興味・関心・声をしっかりと受け止め、それに応じるとともに、常に子どもに寄り添い、その時々の子どもの心の変化や、思いを感じ取りつつ、子どもの成長に合わせた保育の計画・実践に取り組むことが出来た。また、保育ドキュメンテーションを活用することで保育の見直しや子ども理解、環境づくりや援助等保育計画立案にも生かすことができた。
(2) 子ども主体の園生活や行事になるよう、子どもとの対話、保育環境の工夫・実践を行う。	A	子どもと一緒に園生活・活動・行事などを企画・運営し、子ども自身がやり遂げた満足感をより感じられる場面が多かった。その中で、子ども自身が試行錯誤する姿や話し合ったりしながら協力し合ったりする姿が多くみられた。このことで、自信につながるとともに、自分自身の思いや考えを相手に伝える力が身に付いたり、相手の話に耳を傾けたり、お互いを認めたりする姿が多くみられるようになった。
(3) 保育研究を継続的に実施し、保育の質の向上、教職員の資質向上につなげる。	A	今年度は遊びをより充実させるための環境づくりについての研究を行った。園内の研究会等により意見交換などを行うことで一定の成果が見られているが、自由遊び時間、クラスでの保育が繋がり、より園生活を充実させていけるよう、研究をさらに深めていきたい。 多くの研修を受講することができた。引き続き積極的に外部研修を受講していくとともに、お互いの保育を見合ったり、文献研修や実践事例を持ち寄ったりするなど、研究を充実させていきたい。
(4) 健康や安全に関する子どもや教職員の意識を高め、健康な生活を送る。	A	子どもへの「安全指導」「避難訓練」「感染症予防のための習慣」などが定着していると感じている。また、危機管理・安全対策のための講習や救命講習を全職員が受講することができ、意識向上や技能の習得につながった。 引き続き、子どもへの安全・健康指導、職員の意識向上、および保護者への安全教育・感染症対策の啓発を継続していきたい。

(5) 「子育て支援事業」を行い、地域の乳幼児やその保護者が気軽に集える場を提供し、地域との連携を深める。	B	新型コロナウイルスの感染拡大時に地域との交流や地域への子育て支援の機会が減少した。感染症が落ち着いている時期には園での集いの開催とともに、地域の子育てサークルに出張することもできたが、次年度はさらに拡大し、地域の子育てに貢献していきたい。
(6) 家庭との連携を密にし、幼児のより良い成長に繋げる。	B	コロナ禍でできる方法を工夫し、参観日等を開催したり、ICTの活用や、保育ドキュメンテーションを取り入れたりして、園での取り組みや子どもの成長の様子を発信することができ、子どもの成長の共有、園への理解や園と保護者との連携につながった。今後もこれらを充実させ、更なる連携強化に努めていきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもにしっかりと寄り添うことで、一人一人を理解し、信頼関係を築き、その子に合った援助や指導に当たることができた。保護者からも一定の評価を得ている。 ○ 継続して行事の取り組み方や園生活の見直し、職員の研修を積み重ね、遊びの環境を工夫することにより、子ども達が主体的に取り組み、より充実感を味わうことができた。このことにより、子どもが生き生きと園生活を送り、子ども同士の対話や学び、工夫する力、認め合い、協力する力への育ちが大きくみられた。 ○ 保育ドキュメンテーションを取り入れ、保育の研究や保護者との連携に活用した。園の保育理解、自身の保育の振り返りや子ども理解に繋がり、成果を感じる。今後、園務システムと組み合わせることで、さらに充実させるとともに、職員の労務改善にもつなげていきたい。 ○ 職員のキャリアパスを構築することにより、職務に応じた目標に向け、努力すべきことを明確にすることができた。キャリアパスの活用と、自己評価・園評価を組み合わせ、保育の質の向上、職員の資質向上につなげたい。

◎ 3. 4. の評価結果

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後の取り組むべき課題

保育の形態に合わせた保育内容・保育計画の充実を図り、主体的な遊びを充実させる。	<p>園児の成長発達理解に努めていく。また、様々なツールを活用することで、より深く子どもを理解し、一人一人の成長につなげていきたい。コロナ禍難しくなっていた特色の異年齢の交流を通じて豊かな心を育てる保育を展開するよう、方法を検討して行く。</p> <p>さらに、今年度の取り組みをさらに深め、より一層子ども自身が主体的に園生活を送ることができるよう、遊びの環境づくりに力を入れていく。同時に職員自身も主体的に取り組み、充実感を感じながら保育にあたっていけるよう、一つ一つの活動や行事の意味を改めて考えたり、体制づくりを工夫したりしていきたい。</p>
---	---

<p>避難訓練・安全指導・健康指導の充実を図る</p>	<p>園内事故ついて職員全体で把握し、ヒヤリハットの共通理解や研修を積みながら安全意識の高い園体制を作る。また、引き続き事故の起こりやすい場所等の検証も行い、事故を未然に防げるようにする。危機管理・安全対策に係る研修全職員受講も継続していく。</p>
<p>保護者との連携、および、園の保育・教育内容発信、子育て支援。</p>	<p>保育ドキュメンテーション、HPなどを活用し、園の教育・保育内容を細かにわかりやすく発信していく。このことにより、保護者に園の取り組みをより理解していただき、安心感や信頼感につなげるとともに、同じ思いで子育てに向かい、連携を強化していく。また、在園保護者や地域の方の子育て支援に努め、安心して子育てできる環境づくりに貢献していく。</p>
<p>職員の資質向上</p>	<p>職員の意識、指導力の更なる向上のため、特に若手職員を中心とした園内での職員研修の機会を多くもてるようにする。また、キャリアパスによる行動目標を基に、個々が自分の目標を明確にするとともに、お互いの職務の理解をすることで職員間の連携を強固にする。オンライン研修をうまく活用し、研修の機会を多くもてるようにする。</p>